

大樹の礎

Taiju no Ishizue

第19号 2017 3.27
 発行者：学校法人城西医療学園
 日本医療科学大学
 Nihon Institute of Medical Science
 〒350-0435
 埼玉県入間郡毛呂山町下川原1276
 TEL.049-294-9000
 URL http://www.nims.ac.jp



祝賀会で挨拶する新藤学長

2007(平成19)年4月の創立以来、本学は2016(平成28)年に創立10周年を迎えました。その記念事業として11月24日、ウエスタ川越で第一部の記念式典と記念講演会を開催。第二部は会場を川越プリンスホテルへ移し、記念祝賀会を催しました。

記念祝賀会では本学の創立者で理事長である新藤宣夫学長が登壇。新藤学長は「今から30年以上前の当時、X線の技術者はいらっしゃらなかった。レントゲンの技術者についてはあまり

なかった。レントゲンの技術者の養成に力を入れていこうと専門学校を設立したのがきっかけでした。その後、本学の前身である城西医療技術専門学校を設立したのが1984(昭和59)年のこと。診療放射線学科を開設し、人材が必要とされている理学療法学科、作業療法学科も開設し、時代の要請にこたえてきました。

医療は高度化・専門化が進み、それに対応できる人材を育てていきたいという思いから本学を創立したのが10年前。昨今はグローバル化が進展しており、昨年度から海外の大学と学術協定を締結した



記念式典で挨拶する新藤副学長

いないという話を耳にして、ならばレントゲンの技術者の養成に力を入れていこうと専門学校を設立したのがきっかけでした。その後、本学の前身である城西医療技術専門学校を設立したのが1984(昭和59)年のこと。診療放射線学科を開設し、人材が必要とされている理学療法学科、作業療法学科も開設し、時代の要請にこたえてきました。

医療は高度化・専門化が進み、それに対応できる人材を育てていきたいという思いから本学を創立したのが10年前。昨今はグローバル化が進展しており、昨年度から海外の大学と学術協定を締結した



創立10周年記念式典・祝賀会開催 建学の精神「報恩感謝」を新たに

時代が求める人材育成を
 目指して大きく発展

り、ほかにもさまざまな国際交流に取り組み、グローバルに活躍できる人材を育成していきたいと思っています」と、この10年を振り返り、将来の抱負を述べました。

創立10周年をきっかけに「報恩感謝」の気持ちを新たに

記念式典では新藤博明副学長

が「創立10周年を迎えるにあたって学生に改めてお伝えしますが、本学の建学の精神は『報恩感謝』です。多くの方々の理解と支援があつて、医療の現場に就けることに對して、感謝の気持ちを新たに持つてほしいと思います。学生一人一人の地道な努力と、社会に出るからの活躍こそが、本学のこれからの歴史をより輝かしいものにするはず。入学当初の志を今一度思い出し、今後の学習に役立ててください。我々教職員も創立10周年を機に新たな気持ちで精進して参りたいと思います」と、学生や教職員に向けて述べました。

主な本学の歩み

- 2006(平成18)年 設立認可
- 2007(平成19)年 開学
 - 佐藤泰正 学長に就任
 - 2号棟竣工
 - 診療放射線学科 開設
 - リハビリテーション学科 開設
 - (理学療法専攻・作業療法専攻)
 - 第一回入学式挙行
- 2008(平成20)年 1号棟屋上に「日本医療科学大学」のイルミネーション看板設置
- 2009(平成21)年 中庭にオープンテラス完成
- 2010(平成22)年 3号棟竣工
- 2011(平成23)年 第一回学位授与式挙行
 - 金子勝治 学長に就任
- 2012(平成24)年 4号棟竣工
 - 看護学科 臨床工学科 開設
 - 新藤宣夫理事長「旭日小綬章」受章
- 2014(平成26)年 新藤宣夫 学長に就任
- 2015(平成27)年 本部棟竣工
- 2016(平成28)年 創立10周年 記念式典・祝賀会開催

創立10周年の大きな節目と 新たな時代の幕開けを祝う

本学は創立10周年を迎え、11月24日、午前中にウエスト川越で第一部の記念式典、午後は川越プリンスホテルにおいて第二部の記念祝賀会を開催しました。教職員や学生をはじめ、多くの来賓を招き、脳科学者の茂木健一郎氏による記念講演のほか、学生やプロによる音楽パフォーマンスの披露もあり、盛大な催しとなりました。



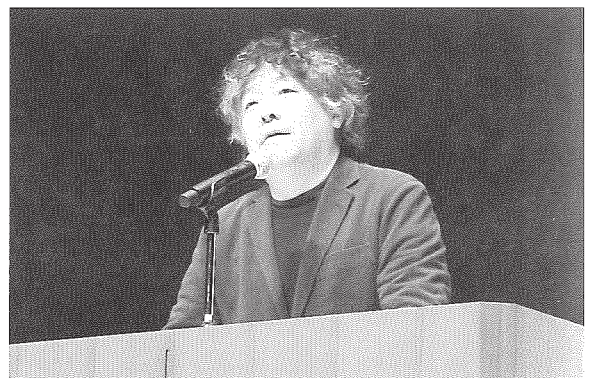
茂木健一郎氏の記念講演など
盛り上がった記念式典

記念式典に先立ち、会場を沸かせたのは学生サークルの発表会。大樹祭でも華麗なステージパフォーマンスを繰り広げたダンスサークル「RDH」が、ここでも工夫を凝らしたダンスで来場者を魅了すると、続いてよさこいサークル「日本医療連」が登場。「日本医療連」は、8月に参加した「府中よさこい」で「ハッピースマイル賞」を受賞し、また、毎年参加している「坂戸よさこい」で、今年度は「審査員特別賞」を受賞しました。数々の実績を上げているほどのパフォーマンスに会場は大いに盛り上がりました。

記念式典が始まると、新藤博明副学長が登場し、創立10周年を機に建学の



運を開く鏡開き。右から中谷学科長、飯田学部長、新藤副学長、成田法人事務局長、本田学科長兼専攻長。



茂木氏は記念講演で壇上を動き回り、ときには壇上へ学生を呼び寄せるパフォーマンスで会場を大いに沸かせた。

精神「報恩感謝」の気持ちを新たに、学生や教員に向けてメッセージを送りました。

その後は、第一部の注目イベントで、作家やブロードキャスターとしても活躍する脳科学者の茂木健一郎氏を講師に迎えた記念講演会を開催。「脳と挑戦」学びの本質に目覚めよ〜を講演のテーマとし、歯に衣着せぬ、親しみを込めた言葉の数々に、会場の誰もがうなずき、ときには笑いや拍手が起りました。人が幸せになるためのポイントとして、「自分の長所や欠点を自分の個性として受け入れること」と、「自分のため」だけよりも「他人のため」に何ができるかを考える」と講演されました。

本学創立の功労者や 永年勤続者が思いを明かす

第二部の記念祝賀会は、本学の創立者で、理事長をも務める新藤宣夫学長の挨拶で開会。続いて登壇した成田正樹法人事務局長は、新藤学長の下で大学開設準備室室長を務めた当時を振り返りました。文部科学省への大学設立認可の申請をはじめ、本学創立に至るまでに東奔西走した日々を懐かしみ、創立10周年を迎えたことに万感の思いを語りました。

来賓の祝辞では、本学と前身の城西医療技術専門学校、そして姉妹校にあたる城西放射線技術専門学校の卒業生が組織するJ J N同窓会の武田一臣会長、続いて本学父母後援会の安田晃会長からお祝いの言葉を頂きました。



父母後援会の安田会長は「本会も10周年を迎え、今後も学生の国家試験合格と本学の発展に向けて活動していきます」と挨拶しました。

日本医療科学大学 創立10周年記念祝賀会

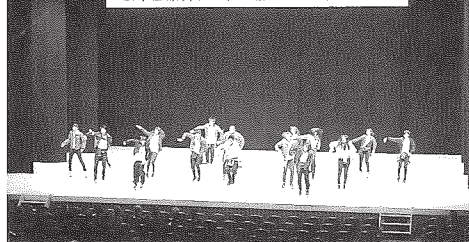


永年勤続表彰では受賞者の1人1人に対して、勤続の労をねぎらう言葉とともに表彰状を授与しました。



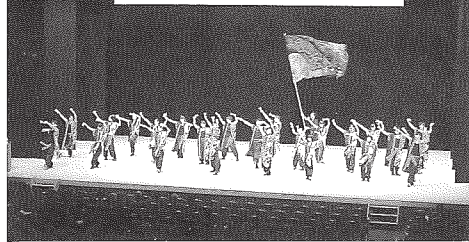
「パーカッション パフォーマンス プレイヤーズ」のパフォーマンスが始まると祝賀会場が賑やかになり歓談が盛り上がりました。

日本医療科学大学 創立10周年記念講演



記念式典の前の学生サークル発表会でダンスサークル「RDH」が、華麗なダンスで来場者を魅了しました。

日本医療科学大学 創立10周年記念講演



躍動感に溢れるよさこいで会場は熱気に包まれ、大きくはためくよさこい旗に書かれた「日本医療連」の文字も踊りました。

挨拶が終了した後は鏡開き。昔から、鏡は大事な魂が宿る場所とされ、鏡開きには「運が開ける」「新しい道を開く」という意味が込められており、10周年記念式典準備委員会委員長の新藤副学長、準備委員会副委員長の中谷儀一郎診療放射線学科長、同じく副委員長の本田豊リハビリテーション学科長兼作業療法学専攻長、飯田恭子学部長、成田法人事務局長の5人が鏡を囲み、会場内の掛け声とともに威勢良く木槌で鏡開きを行いました。

創立10周年記念式典を機に 次なる10年の幕開けに弾み

乾杯の発声に先立ち、新藤副学長は「創立してからの10年はあつという間に過ぎたという実感です。昨年度は看護学科と臨床工学科の第一期卒業生を

送り出すことができ、一つの区切りを迎えられたと一安心しているところで、本学は医療従事者を輩出することが本来の目的ですが、卒業生は単に国家資格を取得すれば良いというわけではありません。確かな知識と技術はもちろんのこと、人間性も兼ね備え、患者様やチーム医療の現場で信頼を得られるような人材の育成を本学では目指しています。今後も本学の特色を生かし、本学ならではのやり方で、更に高みを目指す大学にしていきたいと考えています」と、挨拶しました。

しばしの歓談の間、パーカッションを使ったプロのアーティストグループ「パーカッション パフォーマンス プレイヤーズ」がパフォーマンスを披露。その後の永年勤続表彰では、前身の城西医療技術専門学校の時期も含めて勤続年数30年以上の2名、同20年以上の7名、同

10年以上の12名、同10年目の7名の計28名が登壇。表彰状や記念品の贈呈の後、受賞者を代表して30年以上勤続した2名がそれぞれ挨拶しました。

学歌斉唱の後、閉会の挨拶で飯田学部長は「10周年は本学にとつて大切な最初のステージ、これからの10年は明るい第二のステージにしていきたいと考えています。この10年間、本学は広く門戸を広げて学生を受け入れ、医療従事者を世に送り出すという形で社会に貢献してきたのではないかと感じています。時代の要請、社会の後押し、関係者各位や地域社会の皆様からの応援のおかげでここまで発展できたものと、深く感謝申し上げます」と、挨拶しました。

創立10周年記念式典・祝賀会は、本学の新たな時代の幕開けに花を添えることとなりました。

平成28年度もさまざまな活動がありました

体育館棟・学生会館棟の 新築工事にあたり地鎮祭

1月、体育館棟および学生会館棟（ともに仮称）の新築工事にあたり地鎮祭を執り行いました。新藤博明副学長による鍬入れの儀や玉串奉奠（たまぐしほうてん）など、土地の神を祭りつつ、工事の安全を祈願しました。両棟は平成29年11月3日の大樹祭でのお披露目に向けて工事が始まりました。



「学生ボランティア団体 支援事業」に採択・表彰

12月、「ピンクリボンウォーク（乳がん啓発活動）」や各種救護・防災訓練、地域イベント等に参加する本学のボランティアサークルが、一般財団法人学生サポートセンターの「学生ボランティア団体支援事業」として採択されました。同センターより、本学のボランティアサークルの社会貢献活動を、経済的支援も含め、応援して頂けることになりました。

高大接続改革に基づく 協定により 優秀な人材育成を目指す

文部科学省が推進する高大接続改革に基づき12月、武蔵越生高等学校と高大連携協定を締結しました。今年度は同高校の生徒25名を招き、本学の施設見学や大学紹介、模擬講義、演習なども行いました。今後も同協定をきつかけにさまざまな高校との連携を図り、医療従事者の現状と将来性などを伝えることにより、この改革を進めてまいります。

中華人民共和国の大学生と 大学院生が来学

12月、日本の先端医療技術の発展を学ぶため、中華人民共和国にある浙江工商大学と北方工業大学の教員と学生11名が来学。講義を受け、実習を体験しました。



マニラ・アドベンティスト大学 関係者が来学

12月、学術協定を締結しているマニラ・アドベンティスト大学から大学関係者13名が来学。Rilloma学務部長による特別講演や学内の見学、親睦会等を行いました。



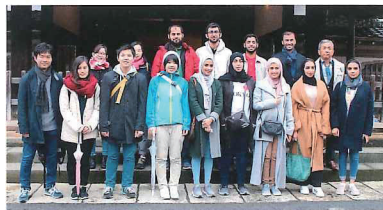
ベトナム・ハノイより Akira Educationの生徒が来学

6月、ベトナムのハノイにあるAkira Educationより、日本語を学んでいる11歳～17歳の生徒9名が来学。施設を見学・体験しました。



アラブ首長国連邦の学生と 文化交流

11月、再生可能エネルギー分野での知見を深めるために来日したアラブ首長国連邦の学生が川越を文化視察。これに本学の学生が同行し、街を巡りながら川越の歴史について紹介しました。



日本医療科学大学

国際交流 活動

本学の教職員と学生がベトナム・ ドンナイ技術大学を訪問

9月、学術協定を結んでいるベトナムのドンナイ技術大学を本学の教職員と学生が訪問。大学とその関連施設を視察し、本学看護学科の教員が講義を行いました。

